

## さくらクリニック中野 院長 山崎 麻央

先日、ALSの方が「もう一度体を動かしてDJをしたい」という願いを筋電を活用してデジタル空間のアバターで実現したという記事を読みました。思うように体が動かないつらさや、できていたことが難しくなる悔しさを感じておられる方も多いと思います。しかし今回の記事のように、筋電というわずかな身体のサインを生かし、デジタルの世界で再び「動く」「表現する」力を取り戻そうとする取り組みが進んでいます。指先がほんの少し動くだけでも、その意思が形となり、新しい可能性につながる時代が来ています。

病気によって奪われるものがある一方で、技術は少しずつ新しい選択肢を広げています。音楽を楽しむ、誰かとつながる、自分らしさを表現する・・・その形はこれからさらに多様になっていくでしょう。

私たち医療者も、日々のケアを大切にしながら、こうした新しい可能性を皆さんと一緒に探し、支えていきたいと考えています。どんな小さな「やりたい」もどうか大切にしてください。

## 先生紹介

今回は3人の先生にコメントをいただきました。

Q1.なぜ医師になったのか？

Q2.今の推しは何ですか？ Q3.好きな食べ物

大津 信一 先生

Q1.高校生の時になぜ心臓が勝手に動くのか  
どうして手足が動くのか興味がわき医師を  
目指そうと思いました。

Q2.youtubeの料理動画を見て料理を作る事

Q3.鴨料理

蓑毛(みのも) 翔吾 先生

Q1.自分の専門性をもって直接人と接する  
仕事をしたいと目指したいと思いました。

Q2.エミン・ユルマズ

Q3.ゴーゴーカレー



夏井 洋和 先生

Q1.人の役に立てる仕事として憧れがあった  
ため

Q2.娘

Q3.焼肉



今回は、心強いチームの皆さまの支援を受けながら1人暮らしをされている「夏目 友人帳のニャンコ先生」が大好きなALSの患者様に記事をお願いしました。  
これからもご本人やご家族が、安心して在宅生活を続けられるよう願っております。  
相談員 和島

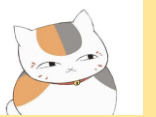
## <闘病記>

1人暮らしが始まって少し後に重度訪問介護の時間が減らされ、自費が増えて、「家族で介護を」と区役所は言う。裁判所の判決では家族が介護する必要はないと出ている。私の場合、家族の仕事が時間が不規則で、3LDKに1人暮らしのため、自宅近くのマンションで24時間介護を受けている。元々は自然死を希望していたが、今回の入院で人工呼吸器を装着することになり、それで生きることを8か月の苦しい入院生活で決めたのに。

区役所でケアマネ、弁護士、妻、訪問医師、訪問看護師代表、介護士代表者と話し合いがあった。私はALSで人工呼吸器を装着しており、吸引や体位変換、排泄介助など常時支援が必要だ。

在宅で支えてくださるケアマネさん、医師、看護師、ヘルパーさん、関係者の支援があるからこそ、何とか生活が成り立っている。

ケアマネさんや弁護士や介護士など強く現実を訴えてくださったおかげで区役所は誤りを認め、訂正と謝罪の手紙が届いた。これで少し改善されてホッとしました。



## ♪ 看護師紹介 ♪

はじめまして！この度さくらクリニックで勤務させていただく佐藤 道哉と申します。

秋田で生まれ育ち、2年前に上京しました。東京に来て感じたことは「こんなに晴れるのか！」ということです。

秋田は佐藤が多いことで有名ですが、実は日照時間が日本一少ない県でもありますので、天気ギャップに驚いています。

他に秋田生活と変わったところは三味線を始めてみたことです。今のところ「楽器やっています」とはまだ言えない腕前です。

いつか胸を張って言えるよう練習していきます。

これからよろしくお願いたします！

